

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人富山県文化振興財団	
施 設 名	富山県利賀芸術公園	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	22,609	(千円)
公 演 事 業	20,255	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,332	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,022	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	SCOTサマー・シーズン 2018	2018年8月24日～ 9月2日	『津軽海峡冬景色』『世界の果て からこんにちは』『トロイアの 女』演出:鈴木忠志、出演SCOT	目標値	2,600
		富山県利賀芸術公園		実績値	1,674
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,600
				実績値	1,674

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校生夏期演劇 講習会	2018年8月2日～3日	講師：村井まどか氏ほか2名 カリキュラム：ワークショップ、 課題創作、課題発表など	目標値	100
		富山県利賀芸術公園		実績値	65
2	利賀インター・ゼミ 2018	2018年8月24日～26日	・研究コース：文化行政職員による 研究会発表、討論会など ・実践コース：演劇ワークショップ の実施。	目標値	100
		富山県利賀芸術公園		実績値	44
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	200
				実績値	109

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術鑑賞会	2018年8月26日, 9月2日	『トロイアの女』 演出: 鈴木忠志 出演: SCOT	目標値	150
		富山県利賀芸術公園		実績値	90
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	150
				実績値	90

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

富山県利賀芸術公園は、大自然に囲まれた独自の施設群を活かして、舞台芸術の創造、上演、国際交流、教育などを通して、芸術文化の創造と振興に寄与することをミッションとしている。

毎年開催される夏の世界演劇祭「SCOTサマー・シーズン」は、ここでしか実現できない非日常的観劇体験が多くのファンを生み、リピーターの観客も多い。住民が500人弱の利賀村にとって、国内外から多くの来村者を迎える機会であり、文化的・経済的に大きな影響力をもつ。全国的にも「文化による地方創生」の先進的事例として捉えられている。

また、この夏の演劇祭シーズンに合わせて開催される、県内の高校生に向けた講習会や文化政策を専門とする大学関係者らを対象としたインターゼミ、県内在住者を対象とした普及啓発事業でも、継続的な実施を行うことで、舞台芸術の人材育成・普及の側面において重要な役割を果たしている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

利賀での舞台芸術の創造・普及事業は、地方における先進的な芸術振興の事例として40年以上に渡り国際的に注目されてきた。2013年以降は、チケット料金という考え方を廃止し、入場者各々に応援の気持ちで支援金額を決めてもらうという、全国的にも画期的な“お志制度”を開始。6年目となる本年は、試みの認知度も高まり、演劇ファン以外への広がりも実感している。利賀のような過疎地での舞台芸術の創造・公演活動を社会的な事業と捉える考え方は、各方面に大きな影響を与えている。

一方で、大自然の中に位置する利賀芸術公園は、鑑賞者等にとっては交通の不便さが大きなネックとなっているが、今回助成により、利賀インター・ゼミの事業では、参加者の移動手段などを提供することができ、多くの参加者を募ることができた。鑑賞会では、直通の送迎バスの運行により、利賀で行われている世界的なレベルの文化事業の体験を、より身近なものとして感じてもらえる契機となった。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

＜公演事業＞ (目標入場者数：実入場者数)
 入場率を95%を目指す。 →99%を達成 (1,615人：1,700人)
 海外からの入場者数を15%とする。 →16%を達成(274人/1,674人)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
対象公演数	4作品 11公演	4作品 8公演	4作品 15公演	3作品 5公演
入場者数/入場定員	2,987人/2,800人	2,894人/3,300人	3,666人/3,700人	1,674人/1,700人
入場率	107%	88%	99%	99%
海外からの 観客数(割合)	352人 (12%)	344人 (12%)	303人 (8%)	274人 (16%)

全体入場者数は、動員目標を超える99パーセントを達成し、動員数だけをとっても成功を収めたといえる。また、海外からの参加者が全体の16パーセントを超え、県内・国内に留まらない国際的な芸術の場として評価されていることが表れている。

＜人材養成事業＞

高校生夏期演劇講習会

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
参加校数	12校	14校	12校	13校
参加者数	84人	106人	101人	65人

利賀インター・ゼミ

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
Aコース(研究)	50人(全国10大学)	9人(全国7大学)	12人(全国6大学)	13人(全国5大学及び3つの自治体職員)
Bコース(実践)	22人	21人	16人	31人

高校生夏期演劇講習会は、地域の高校演劇大会の練習時期と重なったことによりここ数年に比べてやや参加者が減少したが、顧問の先生方からは、講師の目が行き届きやすく細やかな指導が可能になったと評判だった。次年度からは70～80人の参加者募集とし、ひとりひとりに対してさらに密度の高い指導を目指したいという要望が出た。

全国の文化政策を専門とする大学関係者らによる研究コースであるAコースはほぼ前年度並の参加者数で実施。本年は、関西等で実際の文化政策に携わっている行政職員らも参加し、より実践的な事例について話し合いを行えた。また、演劇ワークショップなどを行うBコースでは、利賀演劇人コンクールで入賞経験のある若手の気鋭演出家を講師に迎え、30人以上の参加者が集まった。同じ演出家が数年間継続して講師を務めており、丁寧な指導と経験の蓄積が参加者から好評を得ている。

＜普及啓発事業＞

鑑賞会対象公演 『トロイアの女』 会場/利賀大山房 (目標達成率 参加人数/目標人数)

参加人数
 南砺市民鑑賞会 74人/100人 74%
 富山県民鑑賞会 16人/50人 32%

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
南砺市民鑑賞会	85人	73人	103人	74人
富山県民鑑賞会	実施せず	15人(うち外国人:6人)	39人(うち外国人:7人)	16人(うち外国人:0人)

最寄り駅から山道を越えて車で約1時間の立地にある利賀芸術公園は、海外や都市部からの来場者割合が多い一方で、市内・県内に在住の方からは「交通が不便」「遠い」という声もある。駅や地域の公共施設などを經由する送迎バスを実施することで、近隣地域の方にも世界に誇る舞台芸術の聖地と呼ばれる利賀へのアクセスのしやすさを感じてもらえるよう務めた。この鑑賞会で初めていらした方が、翌年以降ご自分で予約をして来場されるケースも増えている。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

① 事業期間について

例年8月～9月初旬に開催している。観客からも高校や大学関係者からも、毎年同じ時期に開催される方が年間計画が立てやすいとの要望があるため、計画通り実施した。

<公演事業>

メイン会場が野外劇場であるため、最も利用しやすい夏の時期に公演事業を開催している。前年度の冬に上演する演目を決め、春及び7月から利賀芸術公園に長期滞在して作品を創り上げ、8月～9月に公演を行うというサイクルができています。

<人材養成事業>

「高校生夏期演劇演劇講習会」「利賀インター・ゼミ」ともに4月に入学してきた学生や生徒の参加が多いため、夏休み期間中にプロとして活躍している講師から指導を受けることにより、その後の演劇大会や文化祭へ向けてのレベルアップが図れると顧問の先生たちからも好評である。

<普及啓発事業>

公演の開催時期が8月下旬から9月初旬なので、舞台芸術鑑賞会の参加者を7月末に募集し、8月中旬に上演演目の解説などの資料を参加者に送っている。事前に演目の内容について予備知識を持って観劇してもらえるようにしている。

② 事業費について

各事業ともに、出演料や舞台費、講師料以外で支出金額が大きいものはバスの借り上げ料である。利賀は、公共交通が1日2本の市営バスしかなく、最寄駅から狭い山道を1時間走らないと来られないため、観客や参加者の利便性を考えて連絡バス(有料)や送迎バスを用意しているためである。これにより、幅広い年齢層の観客や学生が参加しやすくなっている。

それ以外の経費については、大きな舞台装置を作成する必要のない演目であったり、参加人数が例年より少ない事業があったりしたため当初の予定より支出が抑えられた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

<公演事業>

公演会場となる劇場群で、数ヶ月に渡る作品創造が行える環境が整っていることも利賀芸術公園の特色である。本年度も劇団SCOTによる新作『津軽海峡冬景色』や多国籍の俳優らによる国際共同作品『世界の果てからこんにちは』等の創造が行われた。2018年度の観客動員数は、5公演で約1,700人（うち海外からの観客約250人）。村内の人口が500人を切る限界集落における文化事業として全国的にも珍しい成功を収めている。交通の便の悪い山間にありながら、各地から大勢の観客が訪れるのは文化事業を中核とした地方創生の成果といえる。

<人材養成事業>

[高校生夏期演劇講習会]

本年度は、劇団・青年団で活躍する俳優3名が指導した。基礎的な演技指導とグループに分かれての創作活動を行った。また、同時期には夏の演劇祭「SCOTサマー・シーズン」の稽古などが行われており、鈴木忠志が創出した俳優訓練法「スズキ・トレーニング・メソッド」を見学する等、利賀芸術公園でしか経験できない学びの場で、演劇や文化創造への理解を深めた。

[利賀インター・ゼミ]

富山大学と協働で行う人材育成プログラムで、文化政策を専門に学ぶ大学院生等を対象にした「研究コース」と、演劇サークルに所属する学生を対象に実践的な演劇ワークショップを実施する「実践コース」がある。両コースとも「SCOTサマー・シーズン」開催中に実施し、観劇やシンポジウム聴講など実際のプログラムの参加も行った。長年の開催実績により、「利賀インター・ゼミ」を通じた大学間の文化政策ネットワークが構築されている。

<普及啓発>

世界的な文化拠点である当公園の事業を身近に感じてもらえるように、市民・県民向けに特別バスを運行。また、初めての参加でも最大限理解を深めてもらえるように、作品の解説を作成、鑑賞前に配布するなどの工夫をし、参加者からは好評を得た。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

利賀芸術公園を本拠地とする劇団SCOT（主宰・鈴木忠志）は、舞台芸術を通して地域の文化芸術の柱となる活動を40年以上も続けてきた。今日では、「演劇の聖地・利賀」として国際的な評価を受ける舞台芸術の文化的拠点となり、国や文化を超えて、国内外の多くの演劇人の注目を集める場所となった。利賀村一帯は、少子高齢化が進む超限界集落である。村の人口が500人を切る状況の中で、芸術公園を中心に展開する「SCOTサマー・シーズン」やその関連事業は、「演劇の聖地」を目指す情熱あふれる人達が集うことにより、地域に文化的な付加価値を与え、地域の精神的な活性化に大きな役割を果たしている。

利賀芸術公園において長年積み上げられてきた人的ネットワークがここでの文化関連事業において果たす役割も大きい。高校生夏期演劇講習会では、県内の高校生らに対して、全国で活躍するプロの俳優らの指導を受ける機会を提供。また、この講習会を契機として普段交流のなかった他校間の生徒同士の共同作業が実現している。

インター・ゼミA（研究）コースは、ここで行われる文化事業を中核とし、全国の文化政策研究に携わる大学関係者らが活発な議論を交わす場となっており、インター・ゼミをきっかけとして新たな研究事業が立ち上がるなどしている。本年度は、大阪市や枚方市などで地域の文化政策に携わる行政職員らも参加し、大学や行政という立場を超えて様々な視点から話し合う場となった。

鑑賞会事業では、世界的な文化拠点が富山県内にあるということの認知度の向上を図ると共に、近隣地域在住者に国際的に高い評価を受ける舞台作品を鑑賞してもらうことで地域の文化度の向上に繋げていけたと考える。

このように創造・上演・教育が一体となった当公園の事業は、世界一流の舞台芸術が中核となり、各方面の人々を結びつける役目を果たしており、地域の文化芸術の発展の中核を担っているといえる。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

<公演事業>

- ・チケット料金はとらずに観客のお気持ちにより支援していただく“お志制度”を開始して6年目。理念に賛同した参加者は7,000人近くとなり、継続の成果が現れている。
- ・毎年、世界中から演劇人が集い、夏の演劇祭のための創造活動に参加している。こうした活動を継続的に行うことで、“国際的な場”という評価を揺るぎないものとしている。
- ・周辺地域の人口減少や交通アクセスの悪さなどの困難もあるが、継続的に多くの観客が訪れることで、周辺地域からの応援も厚い。様々な難しい局面で地元住民らとの協力関係を構築しており、地域一丸となった演劇祭の運営を実現している。

<人材養成事業>

[高校生夏期演劇講習会]

- ・継続的な実施により参加経験のある上級生らが下級生を指導する場面も増えている。県外のプロの講師らによる密接な指導を実現できたことにより、企画全体を通して県内の高校演劇のレベル向上に貢献できていると考える。
- ・近年は作品創作のレベル向上の効果が現れている。高校間の交流を促進しながら、普段接することのないプロの演劇人から直接指導を受けられる機会を提供することで、高い評価を受けている。

[インター・ゼミ]

- ・実績の積み重ねにより、文化政策を教える大学や教授・講師間のネットワークが強固になっている。このインター・ゼミでのテーマが新しい研修事業に発展するなど派生的効果が現れている。

<普及啓発>

- ・地元の観客が質の高い芸術作品に触れる機会を提供するだけに留まらず、芸術公園にとっても、地元の応援者の創出や県外への発信の足掛かりとしていきたいという思いがある。将来の芸術公園のファン=応援者を増やしていくためにも重要な事業である。